

V208b 西はりま天文台「なゆた望遠鏡」の運用

伊藤 洋一, ほか西はりま天文台スタッフ (兵庫県立大学)

「西はりま天文台」は、20年以上に渡り広報普及活動を積極的に行ってきた。近年では日本一の口径の光学望遠鏡「なゆた望遠鏡」を主力機器として観望会などの活動に力をいれており、アウトリー活動などで様々な成果をあげてきた。この「西はりま天文台」は2012年度に兵庫県立大の管轄になり、「兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 天文科学センター」という新しい組織になった。そこでは、広報普及活動とともに研究教育活動の充実が求められている。

「なゆた望遠鏡」には、可視光撮像装置、可視光分光装置、近赤外撮像装置、可視光ターゲット観測システムなどの装置がある。これらの装置は定常的に運用されており、晴れば毎晩、天文台スタッフが研究観測を行っている。一方で2012年秋には「共同研究」制度を開始した。これは外部の研究者などがPI、天文台スタッフがCoIとなり共同で観測を行うものである。大学の研究者などが行う研究観測のみならず、高校の先生や生徒が教育目的で行う観測も受け入れていることが特徴である。講演では、望遠鏡や観測装置の現状を述べ、併せて将来の計画についても議論したい。